



# グローバルな触覚研究者像を探る (ハプティクス研究委員会)

Globally Working Haptics Researchers  
(Special Interest Group for Haptics)

蜂須拓<sup>1)</sup>, 川添杏<sup>2)</sup>, サラザルホセ<sup>3)</sup>, 北田亮<sup>4)</sup>

Taku HACHISU, Anzu KAWAZOE, Jose SALAZAR, and Ryo KITADA

- 1) 筑波大学 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1, hachisu@iit.tsukuba.ac.jp)
- 2) カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (Santa Barbara, CA 93106 USA, anzu@ucsb.edu)
- 3) 東北大学 (〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1, j.salazar@srd.mech.tohoku.ac.jp)
- 4) 神戸大学 (〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1, ryokitada@port.kobe-u.ac.jp)

**概要:** 技術開発や研究活動が加速する現在, 多くの分野において横断的な研究開発, グローバル化が求められており, 研究者自身も自身の姿勢を見直す必要がある. そこで本オーガナイズドセッションでは, 研究者として海外で働いた経験のある方, 現在海外で研究活動している方, 逆に海外から日本にいらして研究されている方の研究や体験談から, グローバルな研究者像を探る.

**キーワード:** 触覚, 海外研究, ハプティクス研究委員会

## 1. オーガナイズドセッション概要

本オーガナイズドセッション(OS)では, 過去または現在海外を拠点に活躍している研究者(グローバル研究者)と共に海外で研究する意義を議論しつつ, グローバル研究者自身が主観的に描く自身の研究者像と国内を拠点としている研究者が客観的に描くグローバル研究者像のギャップを埋めることで, グローバルな研究者像に関する理解を深めることを目的とする. これを基に, グローバルで多様性あふれる触覚研究がますます発展することを期待する. 本OSはハプティクス研究委員会幹事の蜂須拓(筑波大学)が座長を務め, 3名の触覚分野のグローバル研究者が研究や体験談について講演形式で紹介する. そして, 事前に決定した, または当日参加者から寄せられたテーマを基にパネルディスカッションを行う.

## 2. 登壇者

### 2.1 川添杏(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)

講演タイトル: 触覚海外留学 Ph.D.を取りにサンタバーバラへ

登壇者紹介: 東京都渋谷区出身. 創価大学工学部情報システム工学科(現 理工学部)で学士, 修士課程を卒業. 現在, カリフォルニア大学サンタバーバラ校, Media Arts & Technology の Ph.D. candidate. Retouch Lab (Yon Visell's lab) に所属. 博士課程での主な研究テーマは振動刺激を指に与

えて, 表面の知覚を拡張する触覚拡張.

### 2.2 サラザルホセ(東北大学)

講演タイトル: 日本と海外の教育・研究・仕事: 個人的な経験

登壇者紹介: 1986年5月26日生. 2010年母国ベネズエラ Los Andes 大学工学部システムズ工学科卒業. 2011年 Ogangi Corporation 入社. 2013年文部科学省国費留学生奨学金を受給し, 東北大学大学院工学研究科バイオロボティクス専攻博士課程(前期)入学. 2018年同大学同専攻博士課程(後期)修了. 同年同大学大学院工学研究科助教, 現在に至る. 2019年日本機械学会 奨励賞(研究)を受賞. ハプティクス, 振動刺激を用いた情報提示, 福祉ロボット等の研究に従事.

### 2.3 北田亮(神戸大学)

講演タイトル: 認知神経科学者のサバイバル

登壇者紹介: 2000年京都大学大学院人間・環境学研究科に入学. 2003年から2005年までクィーンズ大学(カナダ)に訪問大学院生として滞在する. 2005年に博士号取得した後, 再びクィーンズ大学で博士研究員, 日本学術振興会海外特別研究員等と職名を変えながら研究を続ける. 2008年生理学研究所助教, 2017年シンガポール南洋理工大学准教授, 2021年4月から神戸大学大学院国際文化学研究科准教授.